

酪農・豆知識 第 122 号

黒毛和種子牛の哺乳行動 (1)

1.はじめに

黒毛和種繁殖牛においても、繁殖性は低下傾向にあります。その要因の一つとして、黒毛和種などの肉用牛では、産子による自然哺乳にあるとされています。その要因を回避するために、早期離乳などが行われていますが、自然哺乳の行動には明らかでない部分も多々ありますので、その行動について解析しました。



2.黒毛和種子牛の哺乳行動

写真は複数胚移植をして誕生した双子の親子達です。盛んに母牛から哺乳をしています。親子の結びつきは強固なもので、他の子牛が来ると追い払います。一般的には、出生した後、子牛は6か月齢近くまで哺乳をしています。子牛には補助飼料を給与しますが、約2か月齢位からは、乾草や配合飼料を摂取できるようになります。

このような中での、24時間連続しての哺乳行動の調査結果です。51～68頭について解析しています。平均哺乳回数は30日目が9.1回と最も

黒毛和種子牛の哺乳行動

項目	頭数	哺乳回数 (回)	一回当たりの哺乳時間 (分)	一日の総哺乳時間 (分)
10日目	67	8.4	7.8	79.2
30	66	9.1	11.2	102.7
60	68	7.6	11.6	89.8
90	59	6.9	11.7	81.0
180	51	4.8	11.7	56.9

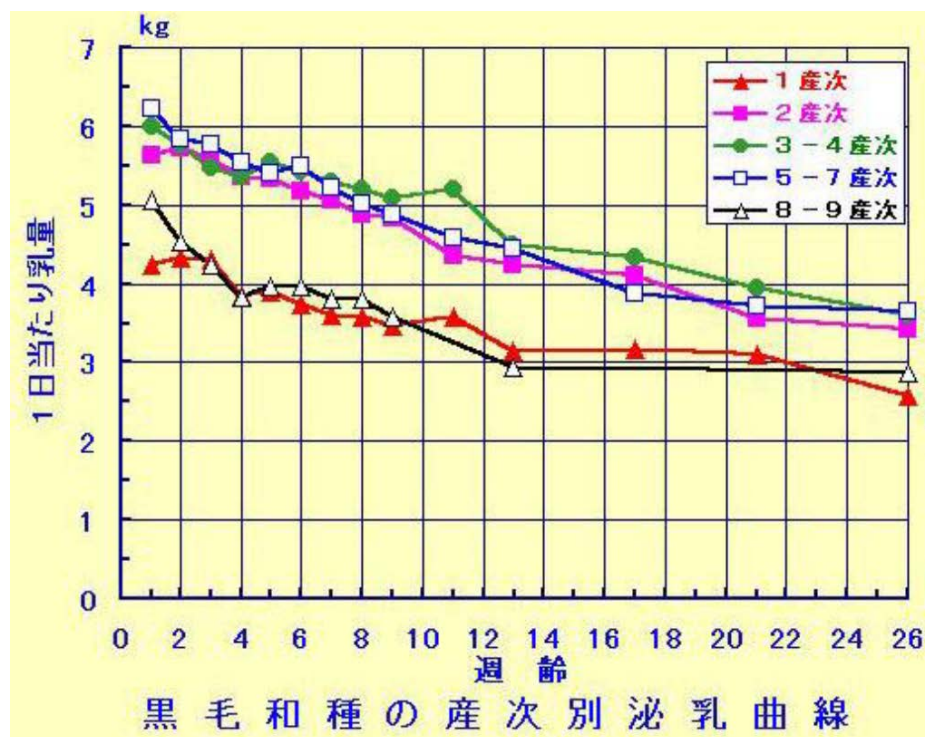
多く、その後は減少傾向にあります。一日の哺乳時間も30日目が100分余りで、最も長く、180日目は60分程度までに減少しました。一回当たりの哺乳時間は10日目が約8分ですが、その後は11分強で変化はありませんでした。

3.黒毛和種の哺乳量

黒毛和種の哺乳量は、一般的に哺乳前後の子牛の体重を計測する重差法で

計測します。バケツミルカーを用いての予備試験の結果では、装着を非常に嫌がることと、絞り終えたと思ってミルカーを外した後に子牛に哺乳させて見ると、約 2 kg 以上も体重が増えていまして、大きな差が生じたので、

ミルカーでの計測を断念しました。古典的ともいえる体重差法による計測ですが、前日の昼に親子分離して、夕方に哺乳させます。再び、親子分離して翌朝に哺乳、親子分離して夕方に哺乳する方法です。ここが乳牛



では搾乳量がリアルタイムでわかるのとは根本的に異なります。

図は産次別の泌乳曲線を示しています。その特徴の一つとして、乳牛では当たり前、いわゆる泌乳曲線が描かれていません。乳牛では4～6週前後にピークを示しますが、黒毛では分娩直後が最も多く、その後は漸減していくばかりです。乳量は初産と8～9産次では、それ以外の産次と比べて1kg程度少ない値を示しました。

4. 終わりに

黒毛和種での哺乳行動と哺乳量の概要についてまとめました。これらのデータを見ますと、母牛は子牛の哺育育成に多大な労力をかけていることが理解できます。次号では、哺乳回数と哺乳量との相互関係等についても解析した結果を掲載いたします。黒毛の親子関係を知る上の一助になればと考えます。

日産合成工業株式会社 学術・開発部

